

第6回 周南市スマートシティ推進協議会 議事要旨

■日 時：令和5年3月22日（水）16:00～17:30

■場 所：周南市役所本庁舎4階庁議室

■出席者：下表の通り

所属・団体名	役職	氏名	区分	出欠
東京大学大学院 工学系研究科	教授	羽藤 英二	学識経験者	出席
周南公立大学 福祉情報学部	准教授	児玉 満		出席
徳山工業高等専門学校 情報電子工学科	准教授	柳澤 秀明		出席
徳山商工会議所		船井 辰郎	関係団体を代表する者	出席
周南市社会福祉協議会	業務課課長補佐	山本 多恵		出席
周南市体育協会	事務局主任	砂田 優一郎		出席
周南市コミュニティ推進連絡協議会	副会長	加藤 洋	コミュニティ組織を代表する者	出席
周南市コミュニティ推進連絡協議会	監事	黒神 充久		出席
山口県未来技術活用統括監		田中 貴光	オブザーバー	欠席
周南市 ICT 推進アドバイザー		藤原 孝幸		出席

■要 旨

1. 開会

(事務局)

- ・ 本日は、委員全員の出席をいただいているので、周南市スマートシティ推進協議会設置要綱第6条の規定により、本会議が成立していることを報告させていただく。
- ・ 会議の開催にあたり、本市企画部長川口よりご挨拶を申し上げます。

2. 挨拶

(事務局 企画部長 川口)

- ・ 本日は大変お忙しいところご出席いただき感謝する。
- ・ 昨年からスタートした本協議会も今年度は最後となる。

- ・ 市では単なるデジタル技術の導入ではなく、地域の課題に対し住民起点で適切にデジタル技術やデータを活用した取組を行うことが重要と考え、ワークショップ等を開催し、ニーズや課題、困りごとを収集しながら、取組を進めてきた。
- ・ 第6回の協議会ではこれまでの取組を振り返りながら、よりよいまちづくりにつながる方向性や、乗り越えるべき課題について皆様の忌憚ないご意見をいただき、次年度の取組につながるような会としたい。

(事務局)

- ・ これからの進行は羽藤会長にお願いする。

3. 議題

(会長)

- ・ 本日は第2回、第3回の協働プログラムの実施報告の後に、今年度事業の総括、今後に向けた進め方について議論できればと思っている。
- ・ 川口部長からもお話があったように、課題の解決を地元からということで、周南市はスマートシティ推進の取組を進めているので、皆様がどのような課題を解決したいと考えているのかが極めて重要である。
- ・ 第2回、第3回の協働プログラムで出てきた問題についても、ぜひ皆で共有し、今後の進め方、周南市の周陽・遠石地区につなげていければと考えている。

(事務局)

(第2回、第3回協働プログラムの実施報告)

(会長)

- ・ 第2回、第3回の協働プログラムの実施報告だった。
- ・ 参加された委員もおられると思うので、「実際の状況」や「こういうことは今年課題だったけど次年度に向けてこのようにやったらよいのではないか」などコメントをいただきたい。

(委員)

- ・ 今まで色々参加させていただき、実際に意見を言ってきた。
- ・ 今回は、周陽と遠石地区がモデル地区になったということで、我々も非常に関心を持って見ていたが、私はいつも、やはり地域の実情とうものをしっかり把握しないと何をしたいのかがわからないということがあると思う。
- ・ ワークショップでも意見が出ていたが、我々も反省すべき点はずいぶん多いと思った。

- 例えば、「住民の人への情報発信が上手くいっていない」「伝達が上手くなされていない」という意見を聞いて、私はコミュニティと自治会連合会両方やっているが、先週の自治会連合会の役員会では、まずはお年寄りの方にスマホ教室をやるんじゃないかという意見がたくさん出ていた。
- 今は、紙媒体の情報提供がベースになっているが、それプラス、子どもたちに向けての発信方法を見直す必要がある。
- また、これからは、お年寄りにとっても、スマホが使えるという能力は重要になってくる。
- 改めて、住民の人たちに何をしたらいいのかを考えさせられたところである。これから色々なツールも出てくると思う。
- ツールはあくまで手段であるが、その手段を使うのは人間であることから、人間同士がツールを介して付き合うケースと、直接フェイス・トゥ・フェイスで付き合うケースの両方があると思うので、上手く付き合っていけるようにしたいと考えている。

(委員)

- ワークショップについて、このように資料にまとめてあると、「上手にまとめてあるな」と感じるが、参加した立場から申し上げると、実際に集まった方の人数とか、そこで出ているテーマとかが第2回と第3回では何が違うのかと感じたし、応募が少なく知り合いの方に声をかけ、とりあえず来ていただいたというようなワークショップで本当にいいのかとは思っている。
- 開催の日時においても、日曜日の日中は集まらないというお話をしても、日曜日の日中に開催されてしまう。
- 今後もワークショップを続けるように言われていたが、続けるのであれば、そういったところも見直していかないと、地域の声が聞こえていないとは思えない。
- 厳しいことを言うかもしれないが、毎回ワークショップで「今、何か不便に感じていることをあげてください」というのから始まって、何が違うのかなと感じているというのが正直なところ。

(会長)

- お二人の言葉を合わせて考えると、スマートシティということで、スマートフォンが一つのキーになると思う一方で、スマホの使い方から説明していくなど、「届かないところにいるような人と、使える人たちの間をどう埋めていくのか」というところが、今後の課題になりそうだということ。
- また、地元から課題を積み上げていく際に、委員からお話があったように、皆が集まりやすい時間帯に集まりやすい場所で、問題設定等、今までの議論がこのように展開されてきたから、このようなことを議論しようということ、今後どのよ

うに展開したくてやっているのかということをちゃんと説明し、皆のモチベーションが高まるような形での実施をしてほしいというところは、次年度に向けて十分に改善可能なご指摘だと思う。

- ・ 誠実に対応していければと思う。
- ・ 非常に言いにくいことを言ってもらったので心苦しく思うが、実直に説明していただき感謝する。
- ・ 第2回、第3回協働プログラムの実施報告を聞いて、他にコメントがあればと思うがいかがか。

(委員)

- ・ 一つ、私から提案させてもらう。
- ・ せっかく今回周陽と遠石地区がモデル地区として選ばれたのだから、できれば、私の方で周陽地区の主要なメンバーを何十人か集め、再度、「周陽地区をモデル地区として今から進めていきたいと、牽いては皆様のお考えを聞きたい」という場を作っていたきたいと思う。
- ・ 若者からお年寄りまで意見をもう一度聞きたい。
- ・ 委員が言われたように、若干軌道修正できれば良いのかなと思う。可能ならば、4月以降また折を見て皆を集めたいと考えている。

(会長)

- ・ このまま進めていくのは少し不安でもあるので、しっかりと色々な世代が入ってきたところで、意見をちゃんと出していくということ、今年度がいいのか次年度がいいのかということはあるが、そういう進め方を望んでいるということである。
- ・ 無理矢理というわけではないが、声掛けで人を集めた状況で本当にいいのかというご意見とつながると思うので、次年度に向けて、色々な層が集まってちゃんと確認し、意見を具体的に出していただく場を設けるということをしつかりと書いて残していくということで良いと思う。
- ・ 重要なお指摘をいただいたと思うが、市から今の提案に対してコメント等があるか。

(事務局)

- ・ 市としても、ある程度限られた人数かもしれないが、住民の方と議論を深める取組をこれまで行ってきた。
- ・ しかし、広く地区住民の方、業者の方に裾野を広げていく活動は必要になってきていると思うので、ぜひ来年度、お手間を取るかもしれないが、地区のコミュニ

ティ、自治会の方々にこれまでの取組をご説明し、今後どうしていくかについて意見交換する場を設けられればと思う。

(会長)

- ・ 極めて重要なところだと思うし、やはりこういうことを経ないと、血の通った事業計画にならないので、ぜひ進めていければと思う。
- ・ 他にコメントはあるか。

(委員)

- ・ 第二回協働プログラムで、地域の課題について説明させていただく機会があった。
- ・ 委員からもあったように、たくさんの方に来てもらおうと思えば、やはり直接声をかけてお願いしていくことが大事で、それを他の委員も実行されているのだと思う。
- ・ イベントの開催を告知する期間が短く、休みの日に時間を割いて来ていただくなれば、メールや電話で案内されただけでは、来てもらえないということもあると思う。
- ・ 事前の告知は早めに、日程だけでも決まった段階でお知らせいただくとか、「この日にしたいと思う」という相談を周陽・遠石の方にさせていただくことが大事になってくると思う。
- ・ 私自身も、発表に関しては打ち合わせができなかった。
- ・ 詳細な打ち合わせができたのが一週間前というタイトなスケジュールだったため、「私の能力ではお引き受けできないかも」ということもあったが、皆様もお困りになるかと思い、なんとか発表させてはいただいた。
- ・ 周南市は、ネットで声をかければたくさんの方が集まってくる場所ではない。
- ・ 大変大事な事業だと思うし、せつかく地域の声を拾ってスマートシティで便利な世の中につなげていくということであれば、そのあたりをしっかりと取り組んで欲しい。
- ・ 人集めは、結構大変。私も色々ところで色々なことを頼まれる機会も多く、誰に頼もうか、誰に頼んだら来てもらえるかといったことを考えている。
- ・ 誰でもいいというわけではないだろうし、その辺の苦勞もあつたのではないかと拝察する。
- ・ 委員の方に知らせるのであれば、メール一本でも構わないと思うので、来年度改善していただければと思う。
- ・ せつかくお金をかけて色々なことやっているの、そこをやっていただけるとありがたい。

(会長)

- ・ 大変タイトになってしまったスケジュールの中で、準備していただき感謝する。
- ・ 皆に集まってもらいたいと思えば、早め早めにスケジュールを確定していくということについては、前回の協議会でもお話があったと思う。
- ・ 十分にできなかったことについては、お詫び申し上げます。
- ・ 次年度は、しっかりと皆が準備しやすく、参加しやすい環境づくりを確認しながら進めていきたいと思う。
- ・ それでは、本年度の総括について事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

(本年度の総括について説明)

(会長)

- ・ 皆様からコメントをいただければと思う。

(委員)

- ・ 先ほどの実施報告にも関わることだが、今回、協働プログラムを実施する期間が短すぎたということ、それとは別に委員が言っていたように、スマートフォンが使える、使えないということも、結構問題になってくるかなと思う。
- ・ 例えば、そういうところについて大学の公開講座等ができたら良いと思うし、もう少し大学として何か色々一緒にやっていくことができればと思っている。

(委員)

- ・ 先ほど言われていた「スマートフォンの高齢者にむけた定期的な講習会」など、うちの教員も iPad の講習会などをよく開催しているので、もう少し告知できて参加者が増え、定期的に活性化できたら良いと思う。
- ・ また、ポータルサイトの利用についての言及があったが、ポータルサイトだと自動的にアクセスしないといけないので、高齢者にとっては少し使いにくいのかなと感じた。
- ・ それなので、告知機能のある LINE 等に参加したときに一度登録してもらい、以降は情報発信したものが自動的に見てもらえるような形が必要になるのではないかと感じた。

(会長)

- ・ プッシュの仕組みづくりということかなと思う。

(委員)

- ・ 今日の会議に出て、スマートシティって何だろうと自分の中でずっと自問自答しながら考えた時に、若い人の考えるスマートシティと年配の人が考えるスマートシティの定義づけというかそもそものところが、どこまで理解されているのか、という理解の差もあれば、やはり自分の中でこのスマートシティ推進の明確なゴールが良く見えていないというか、確かに三つの柱の策定でホームタウン化とかというのはあるが、やはりちょっとテーマが大きすぎる。
- ・ そうなったときに、今モデル地区になっているコミュニティの中の問題解決において、やっぱりゴールが定まらないと途中の過程というか、これを解決するための案も無限大に広がってしまい、收拾がつかないのではないかなと思った。
- ・ ではどうしたらよいかというのは、もうある程度「選択と集中」ではないが、もう何かにテーマを絞って明確な「これをしよう」、例えば、この中の意見でLINEのミニアプリを作って何かイベントをしようというのがあったが、このようなものであれば非常にやることは分かりやすいと思う。
- ・ それをにより世代間のイベント情報の共有だったりとか、LINE等であれば、通知型だから、また例えば自分だったら親に教えたら使い方はなんとなく「メールと一緒にだね」という感じでやってくれたりするので、意外とハードルは低くなるんじゃないかなと思う。
- ・ やっぱり意見を色々集めるのも大事だが、ある程度ワークショップを準備するにしても主役というか、主となるテーマを設定した上でやった方が進むべき方向も示しやすいのかなと思った。

(会長)

- ・ ニーズの汲み上げを進めながらも、ゴールを小さく決めて動かしていくという面ではLINEの活用等は特に色々な世代に対して有効ではないかというご指摘だったかと思う。

(委員)

- ・ 今、意見があったように、この前の第二回の協働プログラムでふるさと振興財団の國兼さんが色々説明をされていたが、高齢者の方も既にスマホを持っている方が割合として半分以上はいたのではないかなと思う。
- ・ また、委員のいうとおりLINEの使用率は非常に高いように思う。
- ・ コロナ禍にLINE通話などで遠方の子どもや孫と話したりしているという声も聞くので、そのような使いやすいツールから入っていけば、もちろん使うことに慣れていただくことは必要かなと思うが、可能性はかなり高いのかなと感じている。

- また、先ほど他の委員からもあったが、久米地区というところがあるが、そこでは地区の社会福祉協議会が主催で、タブレット講習会とか、高専の学生や先生を招いて開催していると伺っている。立地上もかなり近い地区なので、そのような利点もあると思う。
- そういったところで、大学や高専の方で地域への派遣等もしていただき、定期的な講習会等が開催できれば、ハードルも下がるし、大学等の学校と地域のつながりもできていくかなと思う。
- 私共としても、使い方に慣れてもらったり、情報発信ツールとして色々なものを使っていこうということになっているので、高齢者等に向けた講習会等も必要なかなと感じているところである。
- せっかくワークショップなどもやってきているので、先ほども意見が出ていたが、何かにテーマを絞って、この意見が出たからこういうことにつながったというのを一つでも二つでも、次年度に向けて取り組んでいけるといいのかなと思った。

(会長)

- 的確なご指摘をいただいた。
- 一つでも二つでも、とにかくやっていこうというところ、非常に重要なご指摘と思う。

(委員)

- 委員からたくさん意見が出ているので、あえてたくさんは無いが、まず「スマートシティとはなんぞや」というところ、つまりスマートシティというのはITを活用して住民の利便性を高め、暮らしを良くするということだと思うのだが、ITというものが漠然としているよね。
- 逆に言えば、他の委員からもあったが、まずはスマホを使って、お年寄りでも簡単に情報交換できる、地区のニュースが、情報がしっかり入手できる、世代間の交流ができる等、色々なことができると思うので、そういうのを、まずターゲットとして取り組むのが面白いのではないかなと思う。
- コミュニティの若い会員達は若者同士で既にLINEを活用し、常に情報交換をしている。
- 本当にLINEで発信すると、瞬時に情報が伝わる。
- 例えば、「周陽ニュース」というのを一つ作り、そこにアクセスしてもらえば色々なイベント情報が伝わるということを考えているが、やはりその時にスマートフォンが使えないとなるとどうしようもない。
- 高齢者の方々は、普段電話とメールくらいしか使わない。

- ・ LINE とかだと、少しハードルが若干でも高くなるというところがあると思うので、スマートフォンが簡単にうまくツールとして使え、交流・情報発信できるようなものになっていけば面白いかなと思う。
- ・ まず第一歩として、「IT=スマートフォン」ということを言ってもいいのではないかと思う。

(会長)

- ・ LINE は非常に便利だと思っているが、そういいながらも中々人を集める際にも、連絡の出だしが遅くなってしまうと、そういうところも役に立たないということもあるので、リテラシーを今年度のまとめの中でも反省しつつ、次年度にもつなげていけたらと思う。

(委員)

- ・ 先ほど他の委員が言ったように、どのように実際のスマートシティにつなげていくのかが見えないというか、この協議会で今ここまで進んでいて、1年後、2年後には、こんな提案ができるのか、その辺が全く見えていない。
- ・ ワークショップにも毎回違う方が来られていた。
- ・ 最初のワークショップはかなりの人数が来ていたが、意見を出して、最後に取りまとめて発表するというワークショップ形式が苦手な方もたくさんいらっしゃる。
- ・ 最初は興味を持たれる方が多く、夜の開催で皆が来やすかったというところだったが、その方達にワークショップで出た意見を資料として取りまとめたものがフィードバックされておらず、そこで終わってしまっていることが非常に残念である。
- ・ 本来、そこで出た意見などが吸い上げられ、2回目のワークショップでもう少し具体的にふるいにかけられ、3回目で、こういうテーマでやっていこうという流れが見えておらず、毎回イチからのワークショップとなっているように感じる。
- ・ 市やコンサル、皆さんには、それが見えているのかというのが逆に聞きたいところである。

(会長)

- ・ 今までワークショップを何回か実施しているから、スマートシティはこのように進んでいると言いたいところだが、それぞれのワークショップがバラバラのように感じられており、実際そのような状態だということを反省するということが必要である。
- ・ それは、過去に出た意見はこういうことだった、こういう意見はこのように組み立てられるのではないかといった提案もかなりいただいたと思うので、次年度は

もう1回ちゃんと住民の皆様と共有できるような形にして、さらに進めていくということが必要となる。ゼロからまた始めるということではなく、今までの議論を下敷きにして始めるんだという明確な意思を、我々自身がゴールに向かって持つという進め方が良いのではないかと思う。

(委員)

- ・ 今年度は、協働プログラムを3回実施されていると思うのだが、私も1回目のキッチンカーしか伺えていないため、大変恐縮だが、2回目、3回目の参加者がそれぞれ11名と18名程度だったと思う。
- ・ もう少し早めに周知、募集をかけるというのがすごく大事なのかなと感じた。動員をかけるというよりは、皆休みの日を返上して来られるわけなので、ワクワク感を持って参加してもらえるイベントの方が望ましい、その方がいいのではないかと感じている。
- ・ タイトルを見ると、とても魅力的な内容だと思うので、もう少し皆が興味を持って主体的に参加してもらえるイベントを目指す方がいいのかなと思っている。
- ・ その中で得られた情報を基に、次年度の事業計画等に反映されていると思うが、その少ない母体の中から得られた情報を基に、話を推し進めていっていいのかなという不安もある。
- ・ また、報告の中で担い手不足という話があったが、私もスポーツに関わる立場としてすごく感じていて、市内のスポーツ少年団とか、総合型地域スポーツクラブの指導者の方は、皆ずっと同じ方が30年など長い期間されている。
- ・ その方がメインでされている方が団体としては多く、その方が引退されるとそのような組織や団体は、無くなるか衰退していくという場面が、ここ2・3年増えているように感じている。
- ・ 若い方がどうしても、ボランティアなど対価がないため、そこに入ってこれないというのはすごく感じているところである。
- ・ そのため、スポーツの面だけだが、今よりも衰退していくことの方が多いのではないかと感じている。
- ・ それなので、若い方と高齢者の方との交流という話が先ほど出ていたが、そういう場面というか、交流の機会をたくさん持てるようになると、今あるものがなくならずに济んだりするのかなど思ったりもするので、高齢の方々の技術とかノウハウとか考え方とか、色々なものが若い方に受け継がれていき、新しいものが派生してくると、それがスマートシティになるのかどうかは分からないが、良いものに変わってくるのではないかと感じる。
- ・ このあたりも事業計画に組み込んでもらえると、すごく良いと感じた。

(会長)

- ・ 今の意見はとてもいいと思う。今ある色々な活動の後継者の方、支援したりする方々とマッチングさせていく等の際に、この LINE をはじめとする色々な媒体を使ってつなげていくようなことも、次年度ぜひ考えていけたらと思う。
- ・ それでは、次年度の方向性について事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

(次年度の方向性について説明)

(会長)

- ・ 次年度の進め方については、そもそもこのような内容の前に、「ワークショップの進め方が全然駄目ではないか」とか「スケジュール調整からちゃんとしようよ」とか、「議論したときは必ず何を議論したのかを最初に復習してから、立ち位置をはっきりさせた上でゴールを明確化し、積みあげていくように勧めていこう」という意見が相当出ている。
- ・ また、前提となる事業の進め方についても相当強い意見が委員の皆様から出ていると思うので、そのことを自覚した上で、次年度の事業計画にはかなりのテコ入れが必要であることを事務局サイドでも認識してもらえたらという気がしている。
- ・ 委員の皆様も意見が色々あろうとは思いますが、オブザーバーの先生から総括的コメントをもらうことができれば、今後の見通しが良くなると思う一言お願いできないか。

(オブザーバー)

- ・ オブザーバーという立場なので、デジタル技術のことから話をすると、簡単に言うと、「やりたいことが変われば使う技術は変わる」ということに尽きるということだと思う。
- ・ 今まで各委員の皆様から話があったように、スマートシティについて皆さんがどのように感じているのかという定義のところも、個々の思いがあったりもすると思う。
- ・ 皆様の議論を伺っていて感じるのは、「デジタルを活用した地域作りの座組はどうしていけば良いのだろうか」というぐらいのところから、しっかり会話をしながら進めていくことも大切かなと思う。
- ・ 今までワークショップ等を出していただいた市民の皆様の意見も、1つの意見としては本当にあったものだと思うので、率直にそれを棚卸いただき、この地域をどのようにしていったら良いのだろうかというところに、これから活用が求められているデジタル技術をどのように組み入れていけば良いのか、こういったものは必要ないという話なのか、こういったことはやはり勉強していても身に付かな

いなという感覚になるのかということをごだけ地域の皆様の納得感を得ながら進めていくのかということで、しっかり納得感が得られるようになれば、過去の2年間に取り組んできた活動もすべて生きてくると思うし、その部分が上滑った状態で進めていくと、本当はおかしな意見ではないにもかかわらず、適切じゃない進め方になってしまっているという誤解を受けてしまうのかなという印象を受けるので、このあたりしっかりと会話いただければ良いと思うし、それが結果的に今回最後に出されていた次年度の方向性と納得感があるのであれば、そのまま進めれば良いし、ちょっとここが違うよねということであれば、違うものをしっかりと進めていただければ良いのではないかと思います。

- 先ほど最初に言ったように、技術はやりたいことが変わると変わってしまうので、今の時点でどの技術が良いとか悪いとか思わないし、例えばデジタル・ディバイドみたいな話が、本当に最初に取り組まなければいけない事項なのかどうかというところから、会話して合わせにいった方が良いのかなと感じた。

(会長)

- 実に的確にまとめていただき感謝する。
- スマートシティはデジタルな地域づくりの座組から、しっかりと納得感のいくものを設定して、問題ごとにスタートしていけば良いのではないかとのご提案、その中で、現段階ではまだ納得できる座組ができていないということが発展してきていくが、これを進めた方がいいのではないかとご提案は委員の方々からも非常に的確にいただいたので、そのような形で座組を問題ごとに改めながら、次年度の計画を推進していくことをぜひ考えてもらいたい。
- ただ3年目は、4年目も協働しながら、現実的に協力いただく企業の方々等も入ってくる形で、ゴールを見据えた活動に深度化していく必要があるという話になってくると思う。
- また、地域の方々のボトムアップについても、やはりそうは言ってももう1回ぐらいは納得感のあるものを作らないといけないと思うので、これらを同時に実行していくような進め方を次年度の計画の中に少し反映していただいて、少し予算がかかるかもしれないが、じっくり3年目を進めることが極めて重要だと思うので、諦めずに。
- いい意見は相当出ていると思うし、熱心な先生方の講義やスポーツとか福祉とかいろんな観点からのシーズも掘り起こされているので、是非そうしたところを、オブザーバーの先生からのコメントも参考にさせていただいて、次年度の計画をブラッシュアップしてもらえたらと思う。
- 次年度に向けては、先ほどまでの意見で皆様からはいただけたかと思うが、これだけは言っておきたいということがもしあれば、発言していただきたいと思う。

お手元に「しゅうなんQRnavi」という資料があると思うが、非常に面白い取組だと思うので、少し説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・ お手元にA5版の「しゅうなんQRnavi」という冊子を配っている。
- ・ 今年度、市でデジタル・ディバイド対策、情報格差の対策として作成した。
- ・ 福祉情報学部のある周南公立大学と連携し、専門的な知見を得ながら作成を依頼したものである。
- ・ 高齢者の方にもヒアリングを行いながら作成した。
- ・ 中をご覧いただくと、スマホの使い方を知るところからスタートして、様々なウェブサイトを紹介しているものとなっている。
- ・ いわゆるQRコード、二次元コードを載せているため、スマートフォンを使い始めたばかりの方やあまり使いこなせていない方でも、こうした身近な生活情報にたどり着くことができるというもの。
- ・ 先日より、市ホームページに公開しており、自由に使ってもらえるようにしている。
- ・ デジタル・ディバイド対策として、スマートフォンの講座等も市で実際に実施しているが、主に高齢者の方が中心になると思うが、今後はその際にお配りするなどして、活用してもらえたらということで作成した。

(会長)

- ・ 非常に可愛らしい表紙で結構良いと思った。
- ・ なんだ、こんな小さなことかと思われる委員の方もいるかもしれないが、スマートシティの一つの形だと思う。
- ・ いろんな形があって良いと思うので、やはり参加してくださっている方のためにも、スマートシティ、私たちが参加してこんなふうになったんだよと言えるものを一つでも形にしていくということが、3年目、4年目の重要なミッションになると思う。
- ・ 委員の方々においても、出席して活発な意見をいただいているので、ぜひ今年度、今日出た意見を最後の報告書に盛り込んでいただき、座組の組み方、信頼関係の作り方、そしてゴールを設定してスマートシティとは何かをわかりやすい形で、皆が共有できる形にして、一つでも推進していくということを次年度の計画に盛り込んでいただきたいと思います。
- ・ それでは進行を事務局にお返しする。

(事務局)

- ・ 報告という形になるが、来年度の市の事業について簡単に紹介させていただく。

- ・ 本日の協議会も含め、色々皆様にはご意見をいただいた。
- ・ 告知等の期間についてもご意見をいただき、来年度以降そのような事務的なことも含め、しっかり修正していきたいと思っている。
- ・ 来年度、市がモデル地区で取り組む事業として、今までのワークショップ等において、「情報をどう可視化するか」、「知りたい情報を知れるか」ということが意見として多く出てきたと思う。
- ・ 3つの重点プログラム、テーマの中で、学びとか学校と連携した取組ということも挙がっていたので、周陽小学校・遠石小学校と連携した取組を進めていけたらと思っている。
- ・ 各小学校では、毎年危険箇所のマップ作りをされており、今までは模造紙等に地図を書いて手作りしていた。それも味があって良いのだが、それをデジタル化し、デジタルマップ上に落とし込んで一般の方にもご覧いただけるような形にできないかと思っている。
- ・ また、これまでは小学校での発表や市民センターへの掲示をしていたと思うが、これを一般の方にも公開という形で広く知っていただけるような形にできたらと思っている。
- ・ さらに可視化というところでは、市で河川の監視にデジタル技術を用いて実証的にできないかと考えている。
- ・ この取組はスマートシティ推進課で行うわけではないが、実際に事業を実施する河川港湾課と連携し、どのような情報がどのようなタイミングで欲しいのか、お聞きしながら、利用者目線、住民目線で実証に反映させていくという取組を考えている。
- ・ もう一つ、先ほどから話題に挙がっているポータルサイトに関する取組である。
- ・ ポータルサイトになるかアプリになるかは確定していないが、皆さんが生活情報としてどのような情報をどのような形で受け取りたいのか、ウェブサイトという形であれば自分からアクセスしないといけないのでプッシュ型で欲しいとか、自治会の情報をどのような形で受け取れたらいいのかとか、それぞれ世代や置かれている状況、関わり方によっても異なってくる可能性があるので、ワークショップの形になってしまう可能性もあるが、テーマとしてはより具体的な内容について住民の皆様とお話して、どのような技術が使えるのか、どのような情報が必要なのか、整理させていただけたらと考えている。
- ・ 最後に、これはデジタル・ディバイド対策に近い取組になるが、スマートフォンをお持ちでない方を対象にスマートフォンの体験会を実施し、なぜスマートフォンを使わないのか、どのようなことがネックになっているのか等について、アンケートを取りながら調査し、今後活かしていくという取組を考えている。

- ・ 来年度は少し具体的な内容に入り、地区住民や緑地利用者のご意見も参考にしながら、どのようなことをやらないといけなくて、それに対してどのような技術が活用できるのかということを考えて、実装につなげていきたいと考えている。

(委員)

- ・ 資料の45ページの3年目のところにポータルサイトの構築とか、地域情報を発信していくというようなことが具体的に書いてあるが、市の取組と一致しているということかと思う。今後はこの方向で進んでいくと面白いのだろうか。

(事務局)

- ・ ポータルサイトが良いかどうかについてだが、先ほど協議会の中でも意見があったとおり、地域情報を知りたい、自分の欲しい情報をできるだけ効率的に知りたいというニーズや課題はあったと認識しているので、それをどう解消していくかによると思う。
- ・ オブザーバーからもあったとおり、やりたいことによって使う技術は変わるので、本当にLINEが良いのか、別のソリューションが良いのかということも出てくると思う。
- ・ そこは皆さんの意見を聞きながら、それだったらこういうソリューション、技術というように検討させていただければと考えている。

(委員)

- ・ ある程度これがゴールと考えていくということか。
- ・ もう進まないといけないと思うので、これで行くということであればこれでいいと思うが。

(事務局)

- ・ 少なくともモデル地区、市全体でもおそらく同様の課題・ニーズがあるのでそれを解消していくことが、市としての取組だと思う。
- ・ もちろんこれだけというわけではなく、先ほどの河川監視や地域資源・情報の見える化など、色々な課題がある。
- ・ それはそれで課題ごとに進めていくということになる。

(委員)

- ・ 市の来年度の計画は素晴らしいと思う。
- ・ できれば、周陽と遠石を一緒にたにしないで別々にやってもらいたい。
- ・ それぞれの地域に特徴・特性があると思うので、今回モデル地区は周陽・遠石地区とあるが、中身は別々に、目標が若干違ってくるのではないかと思う。

- ・ そのあたりは時間的なこともあるとは思いますが、意見の汲み取りなどは別々にお願いしたい。まずは何を優先的にやっていくかということを取り組んでもらいたい。

(事務局)

- ・ 進め方については、一緒の方が良い場合も別々の方が良い場合もあると思うので、それぞれの地区、コミュニティとどのような形がいいのか、ご相談させていただきながら進めていければと考えている。
- ・ やはり地区の住民の方の納得感というか、これだよねというニーズに取り組めたら良いと考えているので、進め方も含めてご相談させてもらえればと思う。

(会長)

- ・ 委員の方もかなり不安を示しておられるように、まだ議論を尽くせていないところが残ったままでの2年目終了だと思う。
- ・ それなので、3年目の立ち上げの時期に、委員からもあったようにそのプライオリティをこういう形で、こう考えて進めていくといったことや、これまでの取組の中で、問題として浮かび上がったワークショップの進め方等について、こういう形で進めていくという座組の確認をしていただき、そこからゆっくり進めていくということによってスタートすれば、今事務局から説明いただいた内容が、それほど今までの議論と齟齬があるとは思わないので、納得感をもって進められると思う。
- ・ そのあたりを、ぜひ次年度の最初にご確認いただきたいと思う。

4. 閉会

- ・ 以上で第6回周南市スマートシティ推進協議会を閉会する。

以上